

令和2年度 第1回宇治市男女共同参画審議会の会議録（要約版）

日時	令和2年8月26日（水）午後2時～4時
場所	宇治市役所6階 602会議室
出席委員	桂会長、藤本副会長、居原田委員、寺崎委員、中本委員、朝倉委員、西村委員、長谷川委員、日野委員
事務局	福井人権環境部長、前田人権環境部副部長、柏木男女共同参画課長 二木男女共同参画課主幹、山田男女共同参画課専門員
議題	<報告事項> ・宇治市男女共同参画に関する市民意識・実態調査及び事業所調査結果について ・宇治市男女共同参画計画策定にかかる市民意識聴取座談会について ・男女の生きづらさに関するアンケートについて <審議事項> ・宇治市男女共同参画計画（（仮）第5次UJIあさぎりプラン）骨子及び体系について
傍聴者	2名

会議経過及び内容

1. 部長あいさつ
2. 委員交代の報告
3. 会長あいさつ
4. 議事

〈宇治市男女共同参画に関する市民意識・実態調査及び事業所調査結果について〉

事務局から議事内容を説明し、委員から次のとおり意見が出された。

主な意見

- 自由記述を見ると厳しい指摘が多い。「何をやっているのか見えない」「絵に描いた餅」という意見が多く、これらの指摘を具体的な事業レベルとして活かしていかないといけない。一方で、このアンケートで宇治市の取組を知ったという励まされるコメントもあった。今後、どのような事業を打ち出すか考えていかないといけない。
- 自由記述は同様の印象だ。知らない人があまりに多く、手厳しい。男女共同参画に否定的な意見もある。計画の周知と情報提供をどのようにするかが大きな課題である。
- DVにあたる行為を受けても相談しない人が多く、その理由をみると、相談しても無駄、相談するほどでもないと考えるなど、個人的な問題として終わらせようとする習慣、文化に根本的な問題があるのではないかと感じ、先ほどの意見とリンクするよう感じる。DVは社会的な問題であるのとらえてもらえるような施策が必要である。DVの対応では男性は話し合いで解決すると考えるが、

女性の方が施設の充実などを求めておりより切実、具体的である。そこにどう応えていくかが大事だ。コロナウイルス感染拡大防止の家庭内自粛でDVが増えたというニュースを聞いて、相談にも行きにくい状況のなか、ICTの活用などで届きにくい声をどう吸い上げて施策に落とし込むかが課題だと感じる。

●自由記述に公民館活動に関するコメントがあるが、公民館で男女共同参画の事業はやっているのか。
⇒公民館を担当する生涯学習課と連携した取組を行っている。公民館は市内に5館あったが、老朽化による取り壊しにより4館となり、今後名称の変更なども予定されている。

●地域の隅々まで届くような発信が必要なので、今あるものを活用しながら広めていくことはできるのか。相談事業は男女共同参画支援センターだけで行っているが、もう少し行きやすい場所にするなど相談に行くハードルを下げる方法が必要ではないか。
⇒普及啓発の広報が課題だと認識している。情報誌「リズム」を年4回発行している。イベントを含めて市政だよりも掲載する回数は年間24回であるが、情報発信の手法に工夫が必要だと感じている。こちらから出向いていく取組も検討したい。啓発推進は引き続き取り組んでいく。

●事業所調査でも自由記述で、厳しい意見があった。個人のアンケートは名前を伏せるのはわかるが、企業名は公表しないのなら企業名を書いてもらってもよかったのではないか。

●これだけの調査は簡単にはできないので、今後市民にどのように公表するのか。調査結果を市民にフィードバックすることは大事だ。
⇒前回同様、今回も市ホームページで公表予定である。

●その時期はいつ頃を予定しているのか。
⇒審議会で報告して、最終報告書とする。議会への報告もまだなので調整して決定するが、詳細は未定である。

●「女性の就労についての考え方」が、若年者と高齢者が再就職型の支持が多い背景について、事務局の分析はあるか。
⇒高齢者が再就職型を支持するのは予想通りであるが、若年者については、分析不足だが、近年、保守化傾向があると言われているので、それが表れているのではないかと考えている。

〈宇治市男女共同参画計画策定にかかる市民意識聴取座談会について〉

事務局から議事内容を説明し、委員から次のとおり意見が出された。

主な意見

- 今回はコロナウイルス感染防止対策でワークショップが開催できないなかで、良い試みをされた。中身の濃い意見が出ているので、計画策定に活かしていきたい。
- 数字で見るよりも問題がダイレクトに伝わってくる内容である。このような意見を聞く機会は少ないので、広く周知してほしい。
⇒内容について参加者の了承を得ているので、公開することは可能である。

〈男女の生きづらさに関するアンケートについて〉

事務局から議事内容を説明し、委員から次のとおり意見が出された。

主な意見

- この内容も公表する予定なのか。
⇒本日報告した3つの調査については市ホームページで公表予定である。

〈宇治市男女共同参画計画（（仮）第5次UJIあさぎりプラン）骨子及び体系について〉

事務局から議事内容を説明し、委員から次のとおり意見が出された。以下の意見を踏まえ、計画の策定を進めることで承認された。また、仮称を外し、第5次UJIあさぎりプランとすることで承認された。

主な意見

- 19ページまでは「前期計画」である第4次計画の取組と課題、現状が書かれている。20ページからの「本計画」は第5次計画のことである。構成をわかりやすくしてほしい。
⇒文言整理を行う。
- 計画の体系で「計画の基本方向」「計画課題」のあとに「施策の方向」という表現は、再び大きなくくりになるようで違和感がある。
⇒第4次計画でも「計画課題」と「具体的施策」の間に「施策の方向」が記載されている。その考え方を引き継いでいる。
- 「方向」「課題」「方針」という表現ではどうか。
- 骨子案に掲載されている9ページの指標項目の現状値の取り方について、「ワーク・ライフ・バランスの推進」で、育児を支援する事業所と介護を支援する事業所の割合が取組を行っていない事業所を除いた割合となっているということだが、それでよいのか。事業所調査は達成度が高くなっているが、支援策が無くて事業所が困っている実態があるのに、随分できているような数値になって

いる。組織的に積極的な取組があると意識が変わるので、事業所の取組割合は重要である。調査結果から導き出した数字が実態と離れていないか検証して、実態に近い方に合わせるべきである。

⇒育児支援対策と介護支援対策の有無は、別の設問の回答値を採用するのが妥当だと考え修整を行う。

- 経年的に毎回の調査で比較する項目は、設問が変わらない方がよい。

⇒前回と同じ設問で聞いている方の回答値を採用する。他は検討する。

- 市役所の男性職員の育児休業取得の対象となる人数は何人か。

⇒正確な数字を持ち合わせていないので確認する。

- 事業所調査でたずねている育児休業取得者数の数字はどういう意味か。

⇒平成30年度中に育児休業をとった人の人数である。

- 対象者の人数がわからないと意味がない。

- 報告書には何らかの注釈が必要だと思う。

⇒わかるような注釈を検討する。

- 女性の就労状況は、約5割が非正規雇用で変化がない。女性の起業やローカルビジネスを促進するために具体的施策を計画に盛り込まないと単に啓発するだけに終わる。スタートアップ支援は重要である。その点を第5次プランで検討してほしい。

⇒男女共同参画支援センターで「ここからチャレンジ (CoCo チャレ) 相談」を実施しており、それを発展させるなどの検討をしたい。

- 第4次プランにもあるので5次ではもう少し踏み込んだ支援がある方が発展性がある。

- 私自身が起業の相談で、商工会議所や「ここからチャレンジ (CoCo チャレ) 相談」のお世話になった。これから多様な働き方が求められる時代に女性が雇用されるだけでなく、ICTを利用した女性の力が社会で活かせる仕組みづくりが必要だ。相談に行くたびに寄り添ってもらえ、一歩踏み出せるが、関係機関と連携して女性のエンパワメント支援をしてほしい。

- 商工会議所側もPR不足と感じている。市の産業振興課と連携を取りながら起業支援を行っているが、創業の際に多少の支援を行う創業支援助成金がある。関係課と連携して、施策として盛り込めるのであれば良い。

⇒現状、男女に関わらず具体的な起業の目標がある人は商工会議所を活用している。男女共同参画支援センターで相談する人は、一歩踏み出すのが難しい人、メンタル支援が必要な人への支援が中心である。今日的な課題の重要な施策として取り組んでいかないといけない。第5次では商工会議

所と男女共同参画課とが連携して次の一歩を出していきたい。具体的な施策として考えていく。

- 審議会委員の女性割合が上がらないことについて、「充て職だから仕方がない」では変わらないので、各種団体役員に女性を登用する働きかけなどが必要である。

⇒ 団体に依頼するときに「長」でなくてもよいので、女性を委員に推薦してもらうよう依頼していく必要がある。審議会委員の改選時には、所管課長に審議会に女性の視点を入れる必要性を伝えて、女性委員の登用に向けた事前協議を行っている。今後も事前協議を重ねるなど工夫していきたい。

- 骨子案 20 ページの「育児に積極的に関わっている男性は、子どもの成長とともに自分自身の成長も実感できることが多く、家族間のコミュニケーションにも良い影響が生じています。」という文章は良いが、裏付けはあるのか。

⇒ ここは、座談会の発言を元にも書いている。

- 働く女性が増えて、今後、家事・育児・介護を女性や男性がしなければならないという時代ではなくなるのではないかと考えている。仕事として外部化する時代が目の前に来ているのではないか。そうしたことも含めて、男女がそれぞれ生き生きと働くために社会として何が必要かを考えていくことも必要かと思う。

⇒ 市の具体的施策として、どのように反映できるかを検討する。